

CASBEE 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京北地域小中一貫教育校施設	階数	地上2F
建設地	京都市右京区京北周山町中山51番地ほか	構造	RC造
用途地域	都市計画区域及び準都市計画区域外	平均居住人員	0人
地域区分	5地域	年間使用時間	4,000時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年2月 0.0	評価の実施日	2018年4月15日
敷地面積	34,703.19 m ²	作成者	吉川明博
建築面積	5,747.41 m ²	確認日	2018年4月15日
延床面積	8,333.62 m ²	確認者	高梨俊寛



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 89%
③上記+②以外の 83%
④上記+ 83%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.3

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.5

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合 丘陵地の景観や山並みと一体となった外観デザインをはじめ、京北の自然を活かした木のぬくもりを感じる学び舎、地域に開かれ地域と共につくる学び舎、子供と地域にとって安心安全な学び舎の実現を通して、「京北はひとつ」のシンボルとなる学校を目指し、計画した。		その他
Q1 室内環境 普通教室は日当たりの良い南側に配置した。また、建物全周に日射負荷を低減するためのひさしを設けるとともに、空調負荷を低減するためガラスは複層ガラスを標準とした。	Q2 サービス性能 屋根構造材、天井仕上材に木材を多用し、教室の天井高さを十分に確保することで、自然を感じる豊かな室内空間を実現した。また、避難施設として耐震性能の割増しを行うとともに、施設全体の維持管理に配慮したダクトや設備配管に耐久性の高い材料を採用することで長寿命化を図った。	Q3 室外環境(敷地内) 自然豊かな丘陵地に馴染む、低層かつ勾配屋根の外観デザインとし、敷地内バスロータリーに面して子供たちを見守る地域住民のための「見守り隊詰所」を配置した。
LR1 エネルギー 照明設備はLEDを採用し、さらに昼光感知センサーで適正照度補正を行っている。また、自然エネルギー変換利用設備として、太陽光パネルと、木質ペレットを採用している。	LR2 資源・マテリアル 屋外散水用の雨水利用タンクを設置するとともに、衛生機器等に省水型機器を採用した。	LR3 敷地外環境 省エネルギー型の設備機器を採用し、建物の外皮性能を向上させた計画とすることにより、ライフサイクルCO ₂ の大幅な削減を実現した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される